

アルテピアッツァ美唄開設30年を機に、
アルテの丘にこだまする子どもたちの「歓声」を「美唄の力に」の思いを掲げ、
地域発信の基軸に、と考える美唄市とも連携し、
私たちも、美唄の全ての人たちの「誇り」となる場を目ざし、市民の財産であるこの公共空間の、
社会的意味と役割を深めていく使命を、思い新たに果たしてまいります。
そうした視点に立ち、次なるステップに向けたキックオフセミナーとして、
JT生命誌研究館名誉館長の中村桂子さんに、ご講演いただきます。
生命誌のレジェンドと言われる中村さんに、
「生きもの」の歴史と関係を見つめる中で創出された新しい「知」の世界を縦横に語っていただきます。
多くの皆様のご来場をお待ちしています。

磯田憲一



中村桂子 Keiko Nakamura

1936年東京生れ。生命誌研究者。東京大学理学部化学科卒。同大学院生物化学博士課程修了。理学博士。三菱化成生命科学研究所人間・自然研究部長、早稲田大学人間科学部教授、大阪大学連携大学院教授など歴任。「人間は生きものであり、自然の一部」という事実を基本に生命論的世界観を持つ知として「生命誌」を構想。1993年「JT生命誌研究館」を創設し副館長。2002年に館長、2020年名誉館長。著書に「科学者が人間であること」(岩波新書)、「生命誌とは何か」(講談社文庫)、「ふつうのおんなの子のちから」(集英社クリエイティブ)、「中村桂子コレクションいのち愛づる生命誌全8巻」(藤原書店)など。

2022
8.20^土

開場：13:00
開演：13:30

会場：アートスペース(旧体育館)
入場無料 要申し込み・先着順

主催：認定NPO法人アルテピアッツァびばい、美唄市、美唄市教育委員会
特別協力：公益財団法人 秋山記念生命科学振興財団、一般財団法人 HAL財団、公益財団法人 北海道文化財団

中村桂子
アルテで語る
「生きものとしての人間のつながり」
生命誌からのメッセージ

アルテピアッツァ美唄・30年「次なるステップへ」事業
記念講演